

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02062

研究課題名(和文) 女性農業者の技術の再評価と女性農業リーダー育成システムに関する社会学的研究

研究課題名(英文) A research of female farmers's empowerment and improvement of their social status

研究代表者

柏尾 珠紀 (Kashio, Tamaki)

滋賀大学・研究推進機構・研究員

研究者番号：70414034

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：農村社会や農業経営のなかで可視化することが困難な農村女性の熟練技術や技能を、農業技術と生活技術とに分類して検討することを通して再評価の基準を提示した。また、農村女性の技術を体系的に把握、整理し、その貢献度を考察することで、不可視な農村女性の技術を可視化すると同時に、農村女性の多様な技術が地域農業の発展や健やかな社会生活の展開に貢献することを提示した。農村女性の技術保有という視点から再検討したことで、農村社会のなかで農業女性リーダーや女性地域リーダーを育成するための社会的課題を明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、農村研究のなかでも女性農業者の技術という未開拓の視点から調査、研究することを通してその再評価をおこなった点にある。女性の技術に注目したことによって、その習得や保有、継承には明らかに社会的性差や地域的差異があることを解明でき、地域社会研究のなかに位置づけることができた。また、現代的な農業技術のジェンダーが固定化された過程を明らかにすることもでき、男女共同参画への議論の新しい視点を提供することができた。女性の保有する農業技術と生活技術が農業や農村地域の持続的発展に寄与することも明らかにでき、農村地域社会を展望するための糸口を捉えることができた。と考える。

研究成果の概要(英文)：In this research I divided the technique that rural women and female farmers used into a farming technique and a technique for daily life and investigated them, then I evaluated them from a viewpoint of contribution to local development and farming. As a result it was shown that various techniques of female farmers have contributed to agricultural management and keeping safe and sound daily life. In spite of those reality, evaluation for rural women are still lower than men. I found that women are not evaluated from their technique in rural society. It turned out that brought about underestimation of rural women might be mechanization of agriculture.

研究分野：農村社会学

キーワード：農村女性 女性農業者 ジェンダー 女性農業リーダー 生活技術

1. 研究開始当初の背景

農村における女性の技能や熟練技術は、農業経営においても生活経営においても必須だが、それらの重要性はこれまであまり中心的には検討されてこなかった。従来、農家における技術の保有と継承は、家族内での性役割分業を基礎としていた(長嶋 1998)。農業経営全体を管理する技術は男性から男性に継承され、女性には田植えなど重要だが部分的な専門技術と生活技術が継承された(宮本 1975)。機械化以前の農業では、技術的偏りはあったが家族全員が家の経営に参加することで、部分的ではあるが継承的に技術の習得がなされた。しかし機械化以後は、機械操作をはじめとする農業技術全般が男性を中心に専有されたことで、基幹的農業技術は男性に囲い込まれた(柏尾 2016, 2019)。このことは、技術のジェンダー間の分断と世代間の継承の再編と密接に関連するにもかかわらず、技術の点から女性に注目して実証的に検証した研究は希薄である。

他方で、近年農業を目指す女性は、女性ネットワークを頼り、遠方で専門的な技術指導を仰ぎ技術を習得することが多い(柏尾 2018)。農村地域社会に女性農業者を育成するシステムがないだけでなく、女性の農業技術の継承が途絶しているからである。2014年以降、農林水産省は「女性農業次世代リーダー育成塾」を支援しているが、農村内部にその必要性が認識されず、次世代を担う女性農業者の育成が遅れている。職業として農業を選択し自立的経営を営む女性の活躍は、農業や農村の持続的発展の鍵を握る。過去から現在に至る農村の女性や女性農業者の技術の価値を再発見し、可視化したうえで、それらを社会的貢献の視点から再評価することは、農業、農村地域社会を展望するためには重要である。女性のネットワークの有効性も含め、女性リーダー育成システム構築に向けた課題を解明することは急務である。

農村社会には、依然として女性の農業技術を評価して地域農業の担い手や地域リーダーとして育成するシステムはなく、また他方で、女性を中心に継承されてきた生活技術も継承されにくくなっているのが現状である。農村女性の技術は、主要な農業経営の外部にあるため不可視になる傾向が強い。意識的に女性が保有する技術を体系的に整理し、それらが農業の担い手の育成や地域社会の持続的発展、地域の福祉や豊かさいかに貢献するかを検証することは、農業、農村の持続的発展を目指す上で喫緊の課題であると考えられる。

女性の保有する技術は、農業技術と生活技術の二つに分類できる。それらは歴史的に見ても農業や農村地域生活の持続的発展には欠かせないものである。農業技術は、専門的な農業技術を示しており、野菜栽培や育苗、採種などの周辺の技術でもある。例えば、現在でも茶摘みなどの熟練技術や伝統的な手労働の技術の多くは女性が保有している。彼女らの農業技術は、新しい作物を栽培する際の基礎技術となることも明らかである。しかし、稲作経営の外部にあるこれらの技術は評価の対象となることはほとんどない。

他方で、生活技術は生活に根ざしたものであり、伝統的な食品加工や調理、暮らしのコミュニケーションやネットワーク形成などで発揮される。これらの技術は、地域の特産品開発に寄与し、農家民宿を発展させグリーンツーリズムへの展開を可能にした。また、加工の技術は衛生管理や保存の技術と知恵をも包含する。地域活性化や農業の6次産業化にも大きく貢献した。生活技術はホスピタリティの提供とも密接に関連しており、

高齢者介護に適用することも可能である。コミュニケーションを通じて円滑な対人関係を構築する技術も女性の強みであり、多岐にわたる生活技術は農村生活全般を下支えしているだけでなく、地域連携や異業種連携などを通じて発展する可能性を秘めている。

このような女性の技術に秘められた農村の持続的発展の可能性は、広く認識されているとはいえず、その貢献を再評価することは重要である。そこには、かつて当たり前であった有機的な育苗技術や発芽促進の知恵といった現代的なニーズのある技術も多く含まれているからである。これらを掘り起し系統的に整理、記録、保存することも女性の農業技術を再評価するためには必要である。農村女性と女性農業者の技術の体系的把握と検討は、農業、農村の持続的発展の可能性を模索するためにも、また、農村女性のリーダー育成のためにも必須であると考えた。

2. 研究の目的

以上に述べたように、本研究の目的は「技術」の観点から農村女性や女性農業者の活動をとらえなおし、女性が保有する伝統的な生活技術と農業技術の社会経済的意義を再評価するとともに、女性たちの保有する多様な技術が、農村社会の持続可能な発展の基盤となりうることを実証することにある。先行研究の検討からこれまでの研究では注目されてこなかった農村における女性の二つの技術を把握し、体系的に整理することで、農業経営と農村生活の両面で女性の技術がいかに貢献するのかを実証的に明らかにする。この検討を通して、農村社会のなかに社会的評価を受けた女性農業者や女性リーダーが育成される必要性を提示し、今後農村に求められる女性農業者育成システムを考察することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

研究計画に示したとおり、農業経営の形態や地域分類に基づき文献調査と聞き取り調査を進めた。可視化することが困難な女性の農業技術と熟練技能、稲作農業経営の外部にある農業技術、暮らしのなかで継承され駆使されている生活技術とに分類して聞き取り調査と文献から整理、検討することで、体系的に農村女性の技術の把握を行なった。最初に農業センサスで各地域における農業構造分析を行い、それをふまえて地域類型別に、農村社会研究や農業経営研究、ジェンダー研究をはじめ郷土資料や民俗研究、女性史の先行研究から農村女性の技術に関する資料を収集して分析可能なデータに加工した。次にこれらを分析することで、各地域の農村女性像を仮設的に把握してから対面による聞き取り調査を実施した。農業経営の特徴をふまえ大都市近郊地域、地方都市地域、大規模稲作経営優勢地域、特産品生産農業地域で行なった。

最初の2年間は新型コロナ感染拡大防止対策の制約もあり、対面による聞き取り調査をほとんど実施できなかったため、先に全類型地域の先行研究分析と文献検討、資料のデータ化を実施し、聞き取り調査は2年目以降に実施した。予定していた大規模なワークショップは規模を縮小して実施し、女性ネットワークの調査は質問紙調査に変更した。これらにより類型別に体系的な農村女性、女性農業者の技術と熟練について、農業経営部門と生活部門に整理して把握した。また、農村の女性地域リーダー育成の検討については、各地の女性農業委員への聞き取り調査を検討し、女性リーダーを意識的に育成してきた先進的地域では集中的な聞き取り調査を実施した。

4. 研究成果

研究課題は農村女性と女性農業者の技術について、農業経営、農村生活、第6次産業への貢献、地域づくりとの関連という4つの軸から考察し、その成果は研究会や専門的論文で発表するだけでなく、業界誌やコラムなどでも公表した。農村女性の多様な技術が地域農業の発展や健やかな社会生活の展開に貢献することを可視化するために、多様な媒体を活用することでひとつでも多くの事例の認知に努めた。また、女性リーダー育成システムを考えるにあたり、稲作農業の機械化過程を女性の技術保有と更新から再検証することで、農村社会のなかで女性の地域リーダーが育成され難い背景である固定的で現代的な農村特有のジェンダーを解明した。以下2つの項目から具体的に述べる。

(1) 農村女性と女性農業者の技術の可視化について

文献調査とヒアリング調査から、女性農業者の技術は日々の野菜や花の栽培、採種や育苗にとどまらず、新品種を栽培する技術の習得や栽培技術の更新、採種や種の更新時期の見極めなど多岐にわたること、それぞれの技術の習得と更新には情報ネットワークが有効に機能することがわかった。情報交換ネットワークの範囲は地域を超えて多重であり、そのコミュニティは男女混成と特徴的である。また、女性の技術が可視化され評価されるかどうかは地域的な差異が極めて大きいこと、女性の多面的な技術が現代的な農業と農村のニーズに合致し、貢献することを提示できた(柏尾 2022, 2023)。

農業技術を習得する女性農業者は全国的に増加したが、そのほとんどは営農組合型の農業技術ではなく、多様な農業経営を下支えするような汎用性が高い技術である。そのため、大規模稲作経営地域では稲作以外の技術評価が低くなる傾向があった。また、加工などの技術が6次産業化の道を拓き、経済的な貢献を果たすことはすでに指摘されているが、より詳細に検討するためここでは加工、保存の技術を家族内と地域内とに分類して再整理を行った。その結果、これらは家庭内で日常的に食される郷土食や各地の食文化再現に欠かせない技術として位置付けることができた。これらは食生活誌の記録として公表した(柏尾 2021)。また、これらの生活技術は、営農規模や地域の農業構造にあまり影響を受けない点、気候や風土との関連で地域差が大きい点、家庭内郷土料理のなかに継承されている点を明らかにすることができた。

(2) 女性地域リーダー育成システムについて

農村における女性地域リーダー育成の検討については、先進地域の調査を行うことで、農業技術のジェンダーが固定化された経緯を明らかにできた(柏尾 2024)。地域農業のそれぞれの特徴が農業技術のジェンダー形成に関連しており、男性リーダー代替型の女性農業者やリーダーが求められる地域が多数を占める現状が把握できた。したがって、育成システムにのる女性農業者が極めて限定的であり、現実の女性農業者の経営や技術との乖離が大きい。女性の農業経営は多様であるが、農村地域に多様性を評価する雰囲気や土壌が依然として十分育まれていない現状と背景が事例調査からは明白となった。稲作農業の機械化過程に技術評価の再編過程もあり、地域リーダーの舵取りや農村内部の雰囲気が、農業のみならず農村のジェンダーを左右したと考えられた。これらを検討することで、農村地域において農業者に限らない女性リーダー育成にむけた意識改革を検討する糸口を捉えることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 柏尾珠紀	4. 巻 29
2. 論文標題 滋賀県における鮎鮎の継承と普及に関する考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 村落社会研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏尾珠紀	4. 巻 32
2. 論文標題 全国のなれずしと滋賀のなれずし	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 滋賀の食事文化研究会	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計6件

1. 著者名 岩佐光広編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 高知新聞総合印刷	5. 総ページ数 304
3. 書名 越境する視点から地域をみる	

1. 著者名 柏尾珠紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 全国農業委員会ネットワーク機構	5. 総ページ数 83
3. 書名 農業委員会における女性登用と女性の活躍	

1. 著者名 柏尾珠紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 民俗学の射程	

1. 著者名 柏尾珠紀	4. 発行年 2023年
2. 出版社 滋賀県立琵琶湖博物館	5. 総ページ数 201
3. 書名 日本列島を中心とした魚介類消費の研究	

1. 著者名 柏尾珠紀、久保香織	4. 発行年 2021年
2. 出版社 サンライズ出版	5. 総ページ数 354
3. 書名 滋賀の暮らしと食	

1. 著者名 大久保実香、柏尾珠紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 滋賀県立琵琶湖博物館	5. 総ページ数 79
3. 書名 湖国の食事	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------